



まくべつ

わたしたちのまち

(昭和58年6月1日現在)

人口 21,432 (+31)

男 10,576 (+5)

女 10,856 (+26)

世帯数 6,406 (+14)

—人のうごき(5月中)—

転入 101人 転出 89人

出生 28人 死亡 9人

||||||| 生きる喜びを創造するまち・幕別町 (新総合振興計画) |||||



元気いっぱい運動会

6月は運動会シーズン。町内の小学校や保育所などでは、いっせいに運動会が行われました。札内青葉保育所(写真)では、6月19日、朝から霧雨と低温のあいにくの天気でしたが、園児たちは、寒さを吹き飛ばして、元気いっぱいに楽しいひとときを過ごしていました。

特集

58年度政策予算決まる

当初予算は、町長および町議会議員の改選期であったため、完全な骨格予算であったのに対し、林町長初の「政策予算」として、産業基盤の土地改良、農道整備、町道の改良・舗装等の継続事業を中心とする、総額15億3,567万円が追加提案され議決されました。この結果、補正後の一般会計総額は64億6,128万1千円となり、57年度の当初予算と比較すると、6億9,974万5千円、9.8%の減となりました。これは、学校建築などの大型事業が一段落したことや、国の財政難を反映して、土地改良や道路整備事業が圧縮されたこと、また、国・道の農畜産関係の民間への補助制度において、町内で希望する大型事業が少ないことなどが原因となっています。

昭和五十八年度の政策予算を審議する第二回定例町議会が、六月二日から八日までの七日間を会期に開かれ、統一地方選挙後初の政策予算として、新町長より提案され、議決されました。

林町長は、町政を進める基本的な考え方として『町民一人ひとりの声を大切に、すべての町民で創る行政、清潔で町民の利益を守る行政、最少の経費で最大の効果を上げる行政を基調に、六十五年度を目標年次とする、幕別町新総合振興計画の指針に沿って、町民の英知と議会の賛同により、強力

に推進します。しかし、近年の地方自治は、国家経済を取り巻く国際環境の変化から、財政事情は一段と深刻さを加えております。今後も行政経費の圧縮と軽減を図り、健全財政を基本に、「生きる喜びを創造するまち幕別町」という総合計画の理念達成のために、全力を尽くす覚悟です」として、五十八年度の政策予算案を提案いたしました。

昭和五十八年度の政策予算も、自

主財源である地方税の伸び悩みや、地方交付税(国から交付されるお金)の史上初のマイナス要因に加え、公共事業費の圧縮等が影響し、町財政も年々緊縮型へ移行する傾向になっています。このような厳しい時代の中で、町民皆さんの町政に対する要望も多様化し、限られた一般財源の中で、どのようにしていくかが大きな課題となっています。

こうした中で、町民個々の要望

を単に反復して満たすのではなく、地域社会との共同認識による、計画段階からの行政参加について、積極的に取り入れることや、工事発注過程等においても、最少の人員で最大の効果を上げる職員の配置など、一部機構の改革と手直しが行われました。

以下、当初計上のもも含め、本年度予算を中心に、皆さんの身近なことにしてお知らせします。

● 住みよい町づくり

生活環境の向上に重点

「住みよい町づくり」では、交通道路網の整備を始め、下水道や公園、住宅など、生活環境の整備を積極的にやっています。

● 道路

道路は、生活と生産の両面を支えている大切なものです。現在の町の道路網は、国道・二十キロ以

道々・九十二キロ、町道・六百三十キロ以上に及んでいますが、町道の改良率は二百二十一キロ(三%)、舗装率は八十八キロ(一四%)、このうち街路(市街地内道路)は六四%と、決して満足すべきものではありません。町は本年度も道路事業として、改良舗装を積極

的に進めます。新規路線としては、千住十二号の踏切改良や軍岡十線の自転車道整備、西二条通り、春日団地六号などがあります。これらと、継続分の札内高台線など、幹線道路十一本・三千六百八十八メートル通りなど市街地街路六本・二千九百三十六メートル、相川北農道など八本・二千三百八十四メートルの事業を、予算額五億三千万円で実施いたします。さらに、大豊開拓農道など、道営事業として農道六本・九千四百七十一メートルの整備も、町費の一部負担をもって実施いたします。また、交通量の多い日新線(幕別温泉坂)は、継続事業で引き続き、交通安全施設(歩道)として整備いたします。

一般会計総額は64億円に
産業基盤整備にウエイト

商店街の街路灯を一斉更新!

このほか、防じん処理や砂利敷き、除雪など、町道の維持管理を積極的に進めるため、雪寒機械(ダンク)を購入するとともに、未舗装道路の維持管理に要する車両・ス

クルバス等の管理の万全を期するため、車両センターの増築工事を行います。

●公園

町では、豊かな自然を生かした自然公園と、身近な憩いの場となる公園の造成を進めています。自然公園では、明野ヶ丘公園や依田公園の造成を行います。特に、開基八十年の記念事業として計画され、昭和五十三年から整備が進められている明野ヶ丘公園に、約五千六百万円の予算で、駐車場、トイレ、給水施設を設けるほか、観光事業の一環として、明野スキー場斜面二・二杉全面に、年次計画で芝桜を敷き詰め、夏場は花に包まれた町民の憩いの広場として解放いたします。全斜面を飾るには、五年以上の歳月を必要とする事業になります。今年八月ごろ（くわしい日程は後日お知らせします）には、町で用意する苗に加え、町民にも持ち寄ってもらい、全町ぐるみのイベント的な苗植を行います。町民参加の公園広場として整備いたしますので、ご協力をお願いいたします。また、身近な憩いの場



明野スキー場斜面を芝桜でいっぱい

である、子供たちの遊び場としては、止若公園の造成を行うとともに、糠内地区にも農村公園用地を取得します。

●住宅

町民一人ひとりが、快適な環境で生活できるように、町では、宅地の造成や公営住宅の建設を進めています。本年度から公社事業として、緑町地区に四・八杉の宅地造成を行うとともに、公営住宅の建設についても、新緑町団地に二種3LDK二棟（四戸建）と札内桂町団地に二種3LDK二棟（六戸建）を建設します。道営住宅も、桂町団地に二種3LDK二棟（六戸建）が建設されますが、公社・道が一体となって、住宅環境の整備と合わせて、住宅・宅地の需要の増大に対処します。

また、旧幕別郵便局跡地を買収するとともに、地域のコミュニティの場として、緑町近隣センターを建設します。

●あたたかい町づくり

みんなが生きる喜びを

「あたたかい町づくり」では、高齢化社会への急速な移行と核家族

化の傾向にあつて、地域ぐるみの助け合いを基調に、みんなが生きる喜びを十分に理解できるよう、福祉社会の確立と健康の増進を図り

●下水道

町では、幕別市街地区を公共下水道事業で、札内市街地区を十勝川流域下水道事業で整備を進めています。

幕別市街地区下水道事業は、計画額が約十八億円で、第一期工事としての終末処理場、鉄北地区八十八杉の管きょ工事は、本年度をもってほぼ完成します。本年度は、汚水幹線千七十七メートルを実施し、処理場との接続が完了します。また、支線三千メートルを埋設することで、十八杉の面整備が新たに終了し、運転操作設備や中央制御設備など、水処理棟の最終的な機械設備も導入されます。このほか、鉄南地区九十四杉の事業にも着手するなど、環境浄化の早期実現を図ります。

札内市街地区は、十勝川流域下水道事業として、帯広、音更、芽室と共同で事業が進められています。五十八年度、町がこの事業に

負担するお金は三千四百四十万円です。

●上水道

本町では、部分的な施設改修を除き、ほぼ充足されていますが、水の需要は文明のパロメーターといわれるように、年々増大しております。こうした中で、将来の水不足に対処するため、帯広市ほか関係市町村と共同で、十勝中部広域水道企業団を設け、札内川ダムの建設促進に取り組んでいます。

●区画整理

市街化区域内の秩序ある発展を図るため、計画額四十二億円をもって、昭和五十四年度より引き続き、札内北地区区画整理事業が進行中であり、今年度の予算規模は約二億四千万円となります。また、この事業に関連して、札内橋の昭和六十年完成供用開始に伴う、国道拡幅関連事業についても、住民皆さんの賛同を得ながら進めることとなります。

●極的に進めます

老人福祉では、六十八歳以上の老人医療費の無料化を始めとする福祉施策は、さまざまな制約がありますが、後退させないよう努力します。また、老人福祉センターを核として、生きがいを高める活動の定着化と、ゲートボール場の整備を図ります。なお、特別養護老人ホームの増築計画に対応して、短期保護入所や入浴サービス等に

定期的にお年寄りの健康相談も



見合う、建設費補助をいたします。身障者福祉については、ホームヘルパーを一人増員し、主に障害児家庭を訪問介護します。

児童福祉については、措置児童の全員を受け入れ、ほぼ充足されておりますが、今後とも水準の維持に努力します。

●保健

私たちが明るく幸せな毎日過ごすには、心身ともに健康であることが大切です。町では、町内の開業医の皆さんの協力を得ながら、「町民健康センター」を中心とする保健活動を通じて、町民の健康増進と疾病の予防に、最善を尽くすことを基調として、本年度から保健相談や、予防活動の繁忙期には有資格者の応援体制を取ります。また、休日や夜間の医療体制は、救急病院の指定などと合わせて、町内の開業医の皆さんの協力をいただき万全を期します。

豊かな町づくり

産業の発展を推進

「豊かな町づくり」では、高生産農業を中心に、林業、商業など、産業の振興を進めます。

● 農林業

町の基幹産業である、農業を取り巻く社会情勢は、外に貿易自由化の圧力があり、内に価格低迷と一部生産調整が行われているという厳しい現実があります。この実態は中央においては理解されにくく、今後とも手を緩めることなく、国に対し強力に、安定経営の施策を訴えてまいります。町とし

ても、土地基盤の整備や農村生活環境の整備を進め、安定した魅力ある農業経営の確立を目指します。

● 農業者としての農用地整備事業

業も、町内各地で実施されており、これら畑地かんばい事業、明きよ排水事業、畑地帯総合土地改良事業等の大型事業は、農道整備事業を合わせて、計画額が四百億円にも及んでおります。このほか、農業近代化のための農業構造改善事業、酪農振興対策としての町営育成牧場改良事業、地力対策としての肉牛導入事業を実施します。

● 商工業

商工業は、町の経済活動の中で、

● 明日への町づくり

教育環境ますます向上

「明日への町づくり」では、幕別の二世紀を担う子供たちを、ゆとりある教育環境の中で育て、創造性豊かな人材の育成と北方文化の振興を図ります。このために、教育環境の整備充実と生涯教育体系を確立するとともに、社会教育・体育活動の輪を広げていきます。

● 学校教育

本年度は、札内地区の人口急増

重要な役割を持っています。町では、三年前の道の商店街診断結果を、経営の改善と合理化に役立てていただく一方、暗いと不評のあった街路灯を約一千九百万円の予算で、本町と札内地区の商店街に、百二十六基、一挙に更新し、商店街のイメージアップを図ります。これら魅力ある商店街づくりを推進するとともに、経営努力を期待しながら、愛町購買運動の推進や、工事の発注、物品調達について、町内優先の姿勢を貫きます。このほか、中小企業融資利子補給や、自主的な活動団体である商工会活動との調和を図ります。

また、町観光の中心となる、国民宿舎幕別温泉ホテルの部分的な改修を行うとともに、送迎バスの利用により、サービスの向上を図ります。

に対処して、札内南小学校の増築工事を、約八千七百万円の事業費をもって施行するほか、継続事業として、幕別中学校の改築工事を、また、五十七年度に改築された白人小学校の屋外環境整備を行いますが、このほか、札内第二中学校の建設や駒島小学校の改築等の懸案事項にも、教育委員会とも協議し、積極的に取り組みます。

九月には農業者トレンセンが完成



教職員の住宅環境整備については、共済組合の融資を得て、札内桂町に二戸、札内青葉町に六戸を建設します。さらに、明倫線のスクールバス(二十六人乗り)を更新します。

● 社会教育

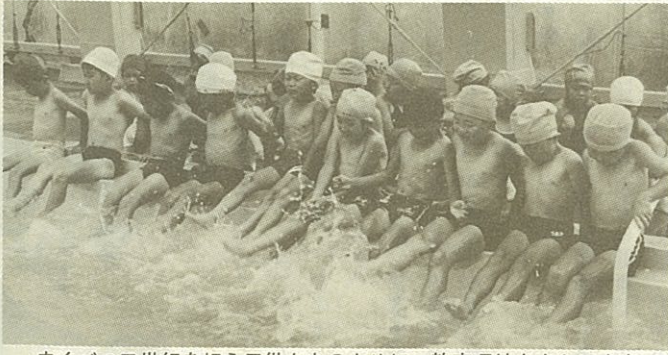
社会教育の目標は、「一人ひとりの心の結びつきからの豊かな地域社会づくり」です。そして、その第一条件は、それを進める施設が必要で、体育施設としての農業者トレーニングセンターは、総事業費約四億一千万円の二カ年継続事業として実施しており、本年の九月には完成の予定であり、本年の九月には完成の予定であり、体育振興の面からも、期待いただけるものと思います。また、文化・スポーツ施設として、郷土館の省エネ工事(電気設備改修)や温水プールの整備、ソフトボール球場の造

成などを行います。

このほか町では、幼児から高齢者に至るまで、各種社会教育活動を積極的に進めてきました。

本年度も、社会教育中期計画の重点である、次の三点を柱に進めていきます。

- ①住民の自主的な活動を促進する社会教育の推進
- ②スポーツの生活化を促進する社会教育の推進

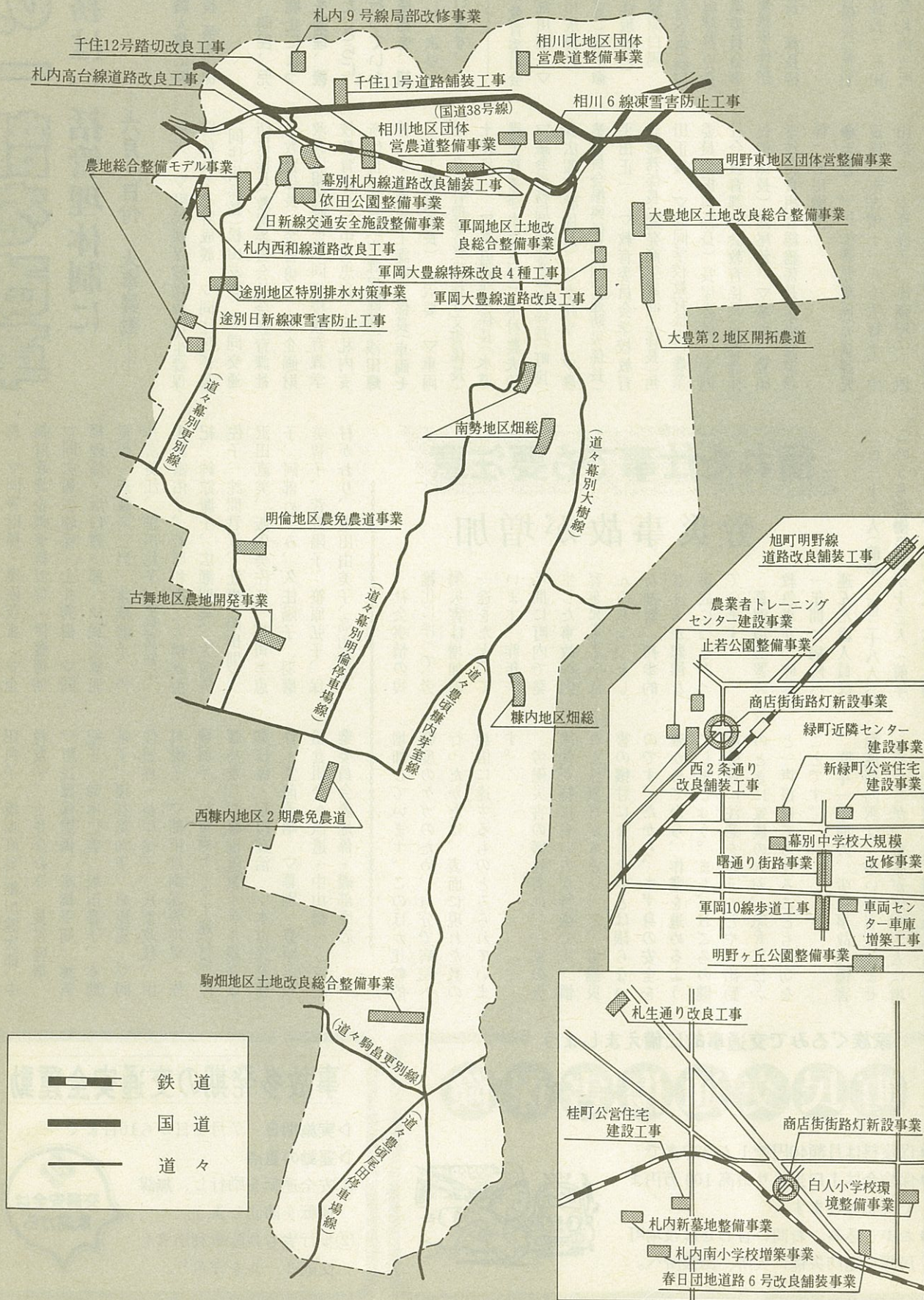


まくべつ二世紀を担う子供たちのために、教育環境をさらに充実

③文化財を継承し、心を豊かにする文化活動の推進
社会教育は、町民の皆さんが満足できる学習の場を用意しても、皆さんの参加がなければ無意味なものとなります。皆さんの積極的な参加を期待します。

ことし行われる主な事業

町づくり地図



機構の一部を改革

入札業務は一括管理体制に

六月一日付 人事異動

五月十七日付の部長職人事に続き、機構改革に伴う課長、係長級の異動を実施しました。

今まであった、民生、町民、児童の三課を、児童課の廃止によって二課にし、業務内容を整理、機構の一部を改革しました。さらに、従来はそれぞれの課で行っていた町発注工事などの入札業務を、総務課で扱う管理体制とし、より一層の適正・効率化を図ります。

- ◆課長職
 - ▽総務課長(教育委員会) 学校教育課総務係長) 荒川潔
 - ▽税務課長(下水道課長) 川尻博之
 - ▽民生課長(開発商工課長) 宮下徹
 - ▽町民課長(税務課長) 逢坂勝己
 - ▽農林課長(町民課長) 篠原白陽
 - ▽開発商工課長(農業委員会事務局) 長) 松山雄三
 - ▽下水道課長(児童課長) 嶺野範雄
 - ▽農業委員会事務局局長(議会事務局庶務兼議事係長) 早苗茂
 - ▽棟内出張所長・課長待遇、玉置敏夫
- ◆係長職
 - ▽総務課文書係長(幕別・豊頃学校給食組合総務係長) 高田敏
 - ▽税務課住民税係長(札内支所住民係長) 本保武
 - ▽民生課児童係長(児童課庶務兼保育係長) 浅見

- 康夫
- ▽町民課保健係長(民生課保健係長) 小野成義
- ▽同住民係長(同住民係長) 松山友春
- ▽同交通防災係長(教育委員会社会教育課社会教育係長) 金曾勇一
- ▽企画財政課広報広聴係長(同学校教育課学校教育係長) 中村忠行
- ▽札内支所住民係長(民生課保健係) 浅田輝善
- ▽開発商工課商工係長(車両センター管理係長) 大沢要
- ▽車両センター管理係長(総務課文書係長) 土井昌一
- ▽水道課浄水係長(水道課工務兼浄水係主任) 木村農夫治
- ▽議会事務局庶務兼議事係長(町民課広報広聴係長) 芝木勝幸
- ▽農業委員会庶務兼係長(同交通防災係長) 平田正一
- ▽教育委員会学校教育課総務係長(開発商工課商工係長) 角田正義
- ▽同同学校教育係長(農業委員会振興係長) 長屋忠弘
- ▽同社会教育課社会教育係長(税務課住民税係長) 西尾治
- ▽幕別・豊頃学校給食組合総務係長(水道課業務係) 前川満博
- ◆主任
 - ▽民生課児童係(児童課児童係) 末吉理子、八十住智子、中山奈美、本保優子、佐藤紀子、西垣くら
 - ▽町民課保健係(民生課保健係) 森野サチ子

- ◆係職
 - ▽総務課総務係・増子一馬
 - ▽同管財係・湯佐茂雄
 - ▽企画財政課企画兼統計係・伊藤博明
 - ▽同広報広聴係・土井秀樹
 - ▽同経理係・坂口惣一郎
 - ▽民生課児童係・斉藤久三男、諸橋静子、吉井富美江、居川礼子、松島真知子、千葉富佑子、若原和恵、大橋美由紀、鉾館麗子、広瀬明美、大前美佐子、詫間君江、辻恵、岡田則子、沢田直美、飯田美佐江、郡司美恵子、阿部めぐみ、久住陽子、羽磨美智子、菅野陽子、笹原弘子、保村かおり、飛田由美子、高山博子、
 - 林妙子、北啓子、横山登美子、太田典子、逢坂直美、細川健次郎、中村友子、土井なおみ、長谷理華
 - ▽町民課保健係・高橋平明、林美紀子、鈴木仁美、坂田春子、本間栄子、境谷美知子、桑原愛
 - ▽同住民係・長尾律子、氏家政枝、田村優子
 - ▽都市計画課管理係・佐藤昌友
 - ▽幕別温泉ホテル総務兼業務係・石田貢治
 - ▽水道課業務係・堂前芳昭
 - ▽幕別・豊頃学校給食組合へ派遣・中山信一
 - ▽農業委員会農地係・磯部康志

慣れた仕事でも要注意

労災事故が増加

社会事情の複雑化に伴って、労働災害は増加の一途をたどっています。昨年一年間に町内で発生した事故の内容を見ますと、ほんのちよつとした油断、初歩的なミスが悲惨な事故につながっています。


幕別消防署の救急車が、昨年一年間に病院へ運んだ総人員は二百三十三人(前年二百二十八人)、このうち労働災害が十三人(前年十一人)と、全体の五・六%(前年四・六%)を占め、前年よりも増加しています。このほか比較的程度のケガのため、自分で病院へ行ったかたは、表面に現れた数の数倍に達するものとみられています。

労働災害の犠牲者は、一家の大黒柱が特に多いのが特徴です。慣れた仕事だからといって、労働災害の犠牲にならないとは限らないのです。だから、まず身の安全を確かめてから、作業を進めるようにしましょう。また、日ごろの健康管理に注意を払うことや、出勤のときに家族の人が、気を付けて、と一声掛けてあげることが大切なことです。

家族ぐるみで交通事故に備えましょう

町民交通傷害保険

- 保険料は月額40円で1人2口まで
- 保険金は1口当たり最高100万円まで支払われます。
- お申し込み、お問い合わせは役場町民課交通防災係、支所、出張所へ。




事故多発期の交通安全運動

▷実施期日 7月1日から10日まで

▷運動の重点

- ①安全運転を励行し、無謀運転を防止しよう。
- ②歩行者も自転車利用者も交通ルールを守ろう。



交通安全は家庭から

表-1 昭57年度国保特別会計決算見込み(単位・千円)

歳入	歳出
国保税 388,314	総務費 24,646
国庫支出金 485,794	療養の給付費 705,310
道支出金 261	療養費 11,597
繰入金 10,716	高額療養費 70,503
繰越金 42,400	その他の給付費 12,483
その他の収入 2,093	その他の支出 60,829
計 929,578	計 885,368
収支差引残	44,210

町民の約半数が加入している国健康保険(以下「国保」という)

みんなで国保を守ろう

57年度 健全財政により

国保税引き下げられる

は、薬価基準の引き下げ、老人保健法の施行等の要因が重なり、昭和五十七年度は収支決算見込みで、表1のとおり剰余金が出て、昭和五十八年度に繰越すことになりました。こうした健全財政が保たれたのは、国保加入者一人ひとりが必要以外の薬や注射を求めたり、急病ではないのに夜間や休日に診療を受けるという「医療のムダ」を少なくしたことが、一番大きな要素と思われます。

このような国保を取り巻く情勢の中で昭和五十八年度を迎え、五月下旬の臨時町議会において、次の通り国保税の引き下げが議決さ

昭和58年度国保税

- ・所得割 100分の7.0 (100分の7.5)
- ・資産割 100分の70 (100分の74)
- ・均等割 8,000円 (10,500円)
- ・平等割 13,000円 (16,000円)

※カッコ書きは旧税率等で、課税限度額は28万円となる

れました。引き下げができた大きな理由は、昨年の農業所得の大幅な伸びと、老人保健法の施行、医療のむだを少なくしたこと。一人ひとりの医療費の節約を、今後にもさらに続けていただければ、他の予想外の要因が出ない限り、大きな国保税の引き上げはなくなります。

昭和五十八年度の国保会計は表12のとおりで、保険給付内容は次のようになっています。

- ①医療費はかかった経費の三割が自己負担
 - ②助産費は一件十万円
 - ③葬祭費は一件二万円
 - ④高額療養費は自己負担限度額五万一千円
- これからも医療費の三割は国保税で、さらに三割は自己負担だということをお忘れなく、適正な医療を受けることに努めましょう。

火の守り任せて

幕別消防団が連合演習

幕別消防団連合演習が、六月一日に幕別温泉野球場および札内市街で行われました。これは、規律正しい技術と団体行動の敏速化を図ることを目的として、毎年行われています。

この日は、朝から小雨の降るあいにくの天気でしたが、十時に幕別温泉野球場に全員が集合し、小隊訓練など、日ごろの訓練の成果



模擬火災による一斉放水

表-2 昭58年度国保特別会計予算(単位・千円)

歳入	歳出
国保税 376,713	総務費 23,709
国庫支出金 473,252	療養の給付費 514,907
道支出金 500	療養費 10,592
繰入金 9,908	高額療養費 39,094
繰越金 100	その他の給付費 13,301
その他の収入 3,361	その他の支出 262,231
計 863,834	計 863,834

を披露しました。

その後、札内市街の十字路で、模擬火災による一斉放水を行い、八本の見事な水のアーチを描きました。締めくくりは、札内中学校吹奏楽部の演奏協力で、各分団による分列行進を行い、町民に防災意識の高揚を呼び掛けていました。

勲五等瑞宝章



故 帰山茂さんに

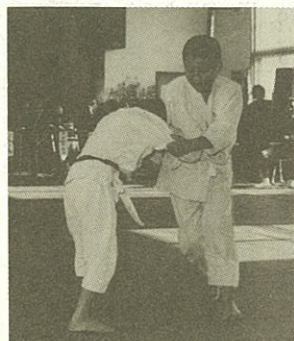
今年の四月九日に死去しました。帰山茂さん(千住)の生前の功績に対し、六月九日付で勲五等瑞宝章が贈られました。

帰山さんは、昭和三十四年四月三十日に町議会議員に初当選以来三期十二年間にわたり在任し、三十八年から四十六年までの二期八年間議長として、地方自治の

振興発展に多大に貢献されました。また、農業を営まれながら、本町の農業者の優れた指導者として、基幹産業である農業の振興発展と農民の地位向上のために、情熱を傾注された功績は誠に偉大なものがありました。

このほか、町議会産業経済委員長、北海道議長会評議員、町農業委員会委員、札内農業協同組合組合長などを歴任し、その功績は高く評価されています。

第五回全幕別少年体重別柔道選手権大会行われる



熱戦を展開した選手たち

第五回全幕別少年体重別柔道選手権大会が、六月十二日に青少年会館で五十人が参加して行われました。大会成績は次の通り。

- ▽三十キ以下級 ①中井隆裕(相小) ②上面真利(幕小) ③四十キ以下級 ①笹島秀彦(幕中) ②馬場友幸(同) ③五十キ以下級 ①野村俊二(幕中) ②鈴木充(札中) ③六十キ以下級 ①岡田全博(幕中) ②三村政仁(幕高) ③六十キ超級 ①道下訓央(幕中) ②高井康人(同)



まちのニュース

▼十勝幼児交通安全指導者講習会が開催される

昭和五十八年度十勝幼児交通安全指導者講習会が、六月十日町民会館において、管内各地から約三百人が参加して行われました。この日は、幼稚園児もいっしょに参加しての講習や映画観賞、講話などが行われ、幼児の交通安全のため、参加者は真剣に取り組んでいました。



▲防犯協会で防犯のぼり立てる

防犯協会ではこのほど、市街地の目だつ場所に、100本あまりの防犯のぼりを立てました。このぼりには「カギかけは家族みんなの合言葉、と書いてあり、ドアなどのカギかけを呼び掛けています。



◀道下正人さんが道社会貢献賞を受賞



毎年冬、遠くシベリアから相川の旧途別川に飛来するオオハクチョウの保護に、30年以上もの間情熱を傾け、ハクチョウおじさん、として広く親しまれている道下正人さん(相川)が、このほど北海道社会貢献賞を受賞しました。

道下さんが初めてえ付けをしたのは昭和24年のこと。当時、ハクチョウは川には寄りつかず畑にうずくまっているだけで、その警戒心を解くことに、20年間も試行錯誤を繰り返したとか。

いまでは、手からパンを直接ついでむほどになつており、そんな苦労が実つての受賞に「地区の人たちや大勢の理解者があつたお陰です」と話していました。



◀札幌市第一・二公区でゴミ収納箱を設置

札幌市第一・二公区では、金属製のゴミ収納箱を昨年は十基、本年も五基を設置しました。その結果、ゴミの散乱がなくなり、たいへんきれいに搬出されています。



健康カルテ

25

「痴ホウその①」

今回は「痴ホウ」いわゆるボケについてのお話です。

人間は、だれでも年を取ります。年を取れば老化現象が現れるのは当然です。しわや白髪が増えたり、動きが遅くなったり、物忘れが多くなったりします。この中でも痴ホウ(ボケ)といわれるものは、日常生活に支障を招き、本人自身、必ずしもそれを自覚することができないので、世話をする家族の苦労も並たいていものではありません。

「痴ホウ」は、脳の細胞そのものが変化し、その働きが低下するもので、生理的な脳の老化による「物忘れ」とは違います。この物忘れ、いわゆる健忘状態では、日常生活に大きな支障を来すことはありません。

痴ホウには、大きく分けて二つの種類があります。老年痴ホウと脳血管性痴ホウです。

老年痴ホウというのは、たとえば、自分の息子や嫁の顔がわ

からなくなったり、すでに亡くなった人のことを、まだ生きていると思ひ込んだり、夜中に起き出して、押入れの整理をし始めたり、さまざま症状を引き起こします。これは七十歳以上のかたに多く見られ、脳神経細胞の急速な変化、減少によるものですが、根本的な原因はまだわかっていません。

脳血管性痴ホウは、まず高血圧があり、頭痛、めまい、記憶力の急速な低下などから始まって、やがて痴ホウ状態に陥っていきます。このタイプのボケは、早期に適切な治療を受ければ、ある程度の回復、少なくとも日常生活に支障のないほどに回復させることができます。

このように、ボケといってもいろいろなタイプがあり、中には適切な対処により、軽くてできるものもあります。しかも、ボケ全体の中では、回復可能なボケ(脳血管性痴ホウ)のほうが多いのです。

シワは増えても、心にシワを持たないこと——これが、ボケ症状になるのを防ぐキー・ポイントです。次回は「痴ホウその2」として、その防ぎ方、対処の方法についてです。

「後輩児童のために」 幕小に匿名の寄付が続く

幕別小学校に昨年の二月から、同校の大先輩と思われる匿名の男性より、毎月欠かさず二万円から五万円の現金が郵送されてきています。匿名の寄付が初めて同校に届いたのは、昨年の二月一日で、封筒の中には現金五万円が入っており、

前略 甚だ突

然で恐れ入ります。今般長い人生の節目に当り、振り返って大過なく勤め得たのは、恵まれた小学校時代に其の基礎があり、懐しく昔日の校舎を想起しております。

就いては同封金員些少ですが、若し後輩児童に恵まれな

短歌 あゆみ会 五月詠草

今年より年金受ける齢になり嬉しくもあり淋しくもあり

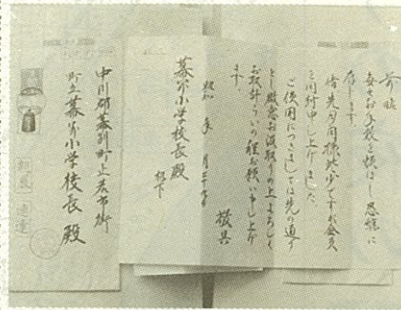
旅行中だけでもせめて可愛いくと化粧鏡にふと思いたり

遺骨なき弟の今日生まれし日よ満開の桜ひそと供へり

会う日なきままに過ぎ来し三十年友のアドレス地図に探しぬ

強風に交す言葉もとぎれつつ夕映えの野に娘と土筆つむ

- 小山 利子
- 棚 久子
- 高橋由貴子
- 塚田 常子
- 齊藤ひで子



最初に届いた時の封筒と手紙

役にたてて頂き度、幸いその様な子が居なければ学校の用品等ご購入費の足しにお加え頂き度ご一任申し上げます。敬具
昭和五十七年一月二十九日
幕別小学校長殿 (原文掲載)

と寄付の趣旨を達筆な毛筆で書いた手紙が添えられてありました。封筒のあて先に「幕別町止若市街」と旧地名が使っており、手紙の文面から見て匿名のかたは、同

校の古い卒業生で、最近定年を迎えた年配の男性のようです。寄付はその後も毎月、現金二万円ずつ欠かさず送られ、先月までで総額三十七万円にもなりました。差出人の手懸りは、封筒に押された「函館」の消印だけでしたが、同校では、何とかお礼ができないものかと、函館地方の新聞に取り上げてもらうなど、八方手を尽してこの寄付主を探しましたが、結局はわからずじまいとなっています。

「寄付ありがとうございます」

町へ……

▽瀬上明夫さん(札内新北町)から父が生前お世話になりましたと三十万円
▽加藤カズノさん(寿町)から夫が生前お世話になりましたと十万円
▽吉田猛さん(糠内)から文化物保存に役立ててくださいと十万円

■町社会福祉協議会へ……

▽石田正衛さん(札内春日町)から全快祝を廃して三万円
▽松田伊佐男さん(千住)から父が生前お世話になりましたと十万円
▽幕別民謡友の会から二万円
▽タンポポサークルから不用品交換会の売上金より五万円
▽匿名のかたから千円
▽笹島郁夫さん(錦町)からチャリティーの益金として一万二千五百八十一円
▽コーワ商事KK(本町)からチャリティーの益金として九万八千四百三十三円
▽矢野ふじえさん(札内青葉町)か

とりあえず学校では、匿名の人の趣旨を生かして、この寄付金の一部で、校歌と教育目標を書き込んだ大型木製パネルなどを購入し、残り二十万円あまりの使い道については、検討中とのことです。同校の会田教頭は「学校全体の感謝の気持ちを何とかしてこの人に伝えたい。もし、町内で親類もしくは友人のかたで心当たりがあれば、ぜひご連絡ください」と話していました。

■老人クラブへ……

ら一円玉募金へ二千二百十六円
▽三谷定美さん(札内春日町)から札内寿会へ五万円
▽田辺末之丞さん(依田)から札内寿会へ一万五千元
▽石塚亀代蔵さん(旭町)から旭町老友会へ三万円
▽明野・新川長寿会へ竹内教一さん(明野)から二万円
▽沢田政太郎さん(明野)から一万円
▽鎌田アサノさん(明野)から一万円
▽日野治安さん(大豊)から一万円
▽森脇俊隆さん(札内あかしや町)から五千元
▽松田伊佐男さん(千住)から稲志別老人クラブへ五万円
▽関口喜好さん(千住)から稲志別老人クラブへ一万円
▽石川大吾さん(五位)から糠内老人クラブへ二万五千元
▽宍戸儀男さん(明倫)から明倫老人クラブへ二万円

■その他……

▽男沢幸男さん(南町)から特別養護老人ホームへ二万円

ストップ・ザ・交通事故

— 14 —



途別291 中村政昭さん

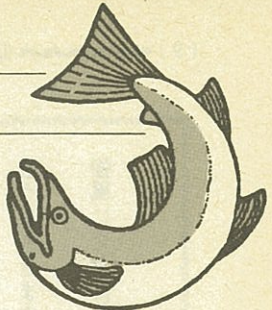
交通事故ゼロ

への提言

最近、私たちと同じ年代の若者の交通事故が急激に増えつつあります。私自身も、ひとりのドライバーとして運転しているわけですが、そもそも交通事故は無理な行動、一瞬の油断など様々な原因によって起こり、だれもが予測することはできません。運転者にせよ歩行者にせよ、自分たちの手で防ぐ以外、方法はないようです。

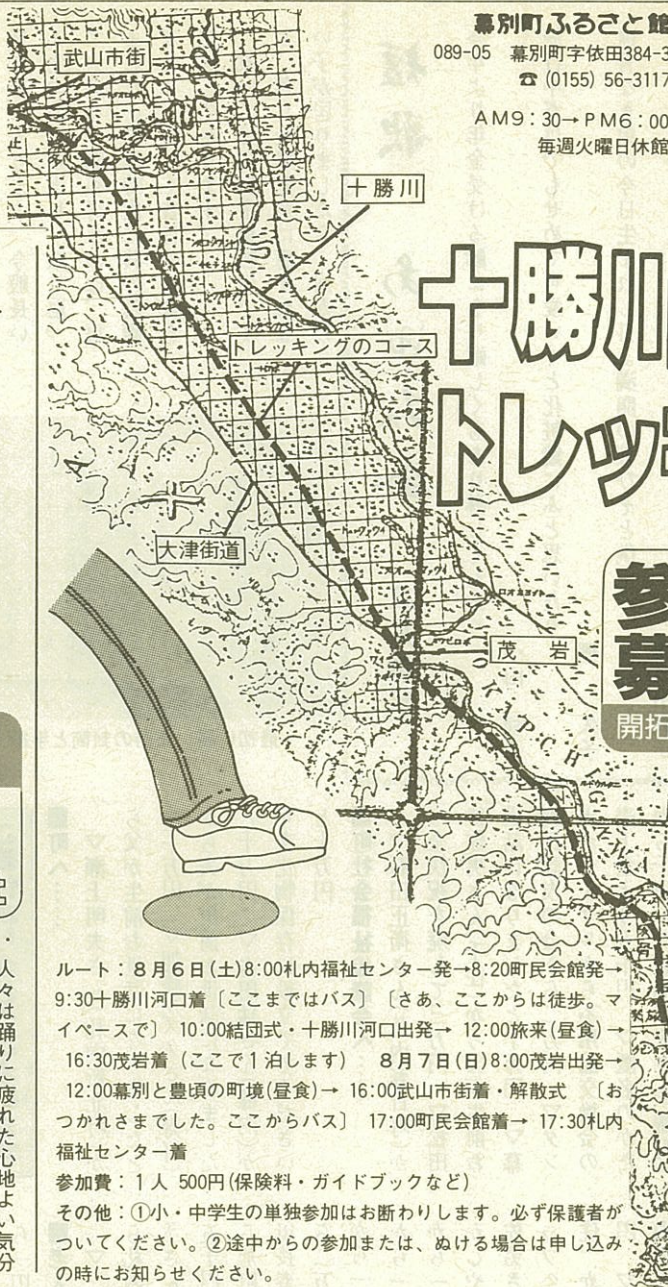
自動車というものは、たいへん便利なものです。しかし、一つ使い方を誤ると、大事故につながる可能性があります。どんなにすばらしい技術を持っていても、技術だけでは事故は防げません。

道路はみんなのもので、一人ひとりがルールを守り、お互いに譲り合い、ゆとりを持って行動していけば、悲惨な事故も少なくなると思います。



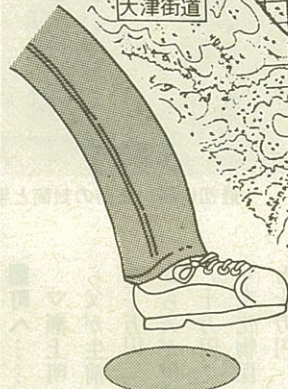
開拓者が90年前にたどった道を、私たちも徒歩で踏破してみようと、大胆にしてドラマチックな計画を考えました。全行程およそ40km、キタキツネが顔を出し、アオサギが舞う十勝川沿いをてくてくと…。ふるさとの歴史と自然にたっぷりふれて「うむ。十勝もなかなかいいな」と思う1泊2日の強行遠足です。

幕別町ふるごと館
089-05 幕別町字依田384-3
☎ (0155) 56-3117
AM9:30→PM6:00
毎週火曜日休館



十勝川 8月6日・7日 てくてく旅行 トレッキング

参加者集
申し込みは
7月30日まで
開拓の道をたどろう



祭りの夜の 出来事

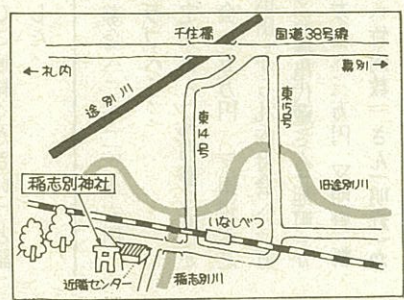
あかね色がまたたくまに消えるころ、遠くからとぎれとぎれに聞こえるかすかな太鼓の音。その音に誘われるように人々は思い思いのかっこうでうす暗闇の道を急ぐのだった。広場の中心に高い櫓が組まれ、まわりにはいくつもの裸電球が下がっていた。

時間がたつにしたがって、人々の心は夜の深まりを忘れて太鼓の音に合わせ、踊りに歌に引き込まれていった。終わりに近づくころは、いつ昇ったか知れぬ月がひんやりとした肌寒いすみきった空気を一直線に地上を照らし、あたりをうすうすがうかがうことができた。

幕別 第38回
ちのち
路傍の神——
開拓の信仰④
稲志別神社

ルート：8月6日(土)8:00札内福祉センター発→8:20町民会館発→9:30十勝川河口着〔ここまではバス〕〔さあ、ここからは徒歩。マイペースで〕10:00結団式・十勝川河口出発→12:00旅菜(昼食)→16:30茂岩着(ここで1泊します) 8月7日(日)8:00茂岩出発→12:00幕別と豊頃の間(昼食)→16:00武山市街着・解散式〔おつかれさまでした。ここからバス〕17:00町民会館着→17:30札内福祉センター着
参加費：1人 500円(保険料・ガイドブックなど)
その他：①小・中学生の単独参加はお断わりします。必ず保護者がついてください。②途中からの参加または、ぬげる場合は申し込みの時にお知らせください。

人々は踊りに疲れた心地よい気分にはひたりながら、三三五五、家路に急いだ。
しかし部落の主だった人たちは後始末をして帰ろうとしたが、まだ心残りがあつたのか、神殿の庭の火を囲み、残った酒を酌み交わした。一段と酔がまわりはじめたころ、
「おい、今年の当番はなつとらんぞ」
「なんでだ。何になつとらん」
「そなえものは少ないしよ。それに櫓が曲がつて立ってるとるべや」
「バカなこと言うなや、そなえ



稲志別とは、アイヌ語で「遠くの方まで川が見える所」という意味のようであるが、この辺りは湿地で、草原が川に沿って奥の方まで川筋が眺められたのだから。
稲志別は、戦後の農地解放によって自作農となった人たちが多かった。旧途別川の北側(千住)は、平坦な土地で古くから開け、自作農が多かった。白人神社の祭りの

ものはいつもと同じだべさ。それに櫓は、ゆんべの風で曲がつたんでないか」
「そなえものは少ない……」
「いや同じだ」
言いだしたらどちらも引かない二人は、
「すつたらこと言うなら、おらはおらで部落に神社さ建てる」
「ほーお、大きな口たたいてー建てるもんならやってみれ」
「おーお、こんな神社よりもっと立派な神社建ててやるべ。なあみんな」
酒の肴で冗談まじりの一言が、とんでもない方向に発展してしまつた。

当番は、稲志別地域と千住地域で一年交替に行なわれていたのである。
農地解放後の自作農と、以前の自作農との反目もあつたらうし、白人神社までの距離に不便さを感じてのこともある。稲志別の住民は、前々から自分たちの近くにも神社がほしいという願いが強かつた。
どんな物議があつたかは想像の域を出ないが、次の年、戸数わずか三十戸の新生と中稲志別の人々は、西尾正造さんを中心に何回もの会合をもつた。
一坪たらずの神殿は七万円だった。このころの米一俵(六十キ)の相場が三千円であつた。俵にする、およそ二十四俵(現在額六十七万円位)になり、戸数で割ると一戸二万円以上になる。寄付を集めるのに、たいへんな苦労があつたという。
会館用としての土地はあつたのだが、神社となれば平地では場所がまずい。それで相川の渡辺さんの山林を口頭で了解してもらい、山の中腹に建てることになつた。
御神体は猿別の金刀比羅神社の野瀬神主によって分霊され、昭和二十八年九月十六日に祭礼が行なわれた。祭礼は次の年から十一日になり、現在に至る。その間、社の建てかえがあつた。
(取材・岩田 繁行)
●取材協力 西尾正造さん(セ)

「僕の探鳥ノート」は休みます。